ミュンチング著『アールドゲワッセン』の飯沼慾斎による模写図について

水野瑞夫[a)], 遠藤正治[b)], 松田 清[c)]

要約：『草木図説』は飯沼慾斎の蘭方医としての生薬研究に結びついた植物研究の成果ともいえるが，これまでその成立過程は十分に解明されていない。今回筆者らは，17世紀オランダのアブラハム・ミュンチングの植物書『アールドゲワッセン』の慾斎自筆と伝わる221枚の正確な模写図を発見した。『アールドゲワッセン』は，18世紀末にわが国に舶来した事実は知られているが，舶来当時の原書や写本の伝存は報告されていない。従って今のところ，慾斎の模写図は『アールドゲワッセン』の模写図としてわが国唯一のものである。この新出の模写図の分析と『草木図説』にみられる『アールドゲワッセン』の引用記事の検討を試みた。模写図の作成が『草木図説』の起筆の一つの動機となった可能性がある。

A Study Iinuma Yokusai's Reproduction of A. Munting's Botanical Illustrations

MIZUO MIZUNO[a)], SHOJI ENDO[b)], KIYOSHI MATSUDA[c)]

Abstract: "Sômoku Zusetsu (Illustrated Explanations of Botany)" is thought to be the fruit of Iinuma Yokusai's botanical study, which was closely ralated to his study of crude drugs used by Ranpôi or Dutch style physicians. But the process of formation of this work has not been fully elucidated.

Recently, the authors of this monograph have found 221 accurately reproduced illustrations in Yokusai's own hand, from the Dutch botanical work by Abraham Munting of the seventeenth century. While the precise title is "Naauwkeurige Beschryving der Aardgewassen (Accurate Descriptions of Botany)", this work was popular among Japanese Dutch scholars as "Aarudog ewassen". Although it is well known that it was introduced into Japan at the end of eighteenth century, there have been no reports on the existence of the original text at that time nor of hand-written copies. Therefore, for the present, Yokusai's are the only existing copies of Munting's "Aarudogewassen" in Japan.

We attempted to analyze these newly discovered copies and examine quotations in "Somoku Zusetsu" from Munting's original text. It is possible that producing this reproduction provided the motive for writing "Somoku Zusetsu".

a) 岐阜薬科大学
岐阜市三田洞東5丁目6−1
b) 岐阜県立華陽高等学校
岐阜市大縄場3丁目−1
c) 京都大学総合人間学部
a) Gifu Pharmaceutical University,
6-1, Mitahora-higashi 5 chome, Gifu 502, Japan
b) Kayoh High School,
3-1, Ohnawaba, Gifu 500, Japan
c) Faculty of Integrated Human Studies,
Kyoto University,
Yoshida Nihonmatsu-cho, Sakyo-ku,
Kyoto 606, Japan

1. 模写図発見の経緯

牧野富太郎の『増訂草木図説』と北村四郎編註『草木図説』木部の解説はいずれもミュンチングや『アールドゲワッセン』に全く触れていない。『草木図説』では『アールドゲワッセン』を参考書として利用しなかったとの誤解も流れるほどで[1]，これまで『アールドゲワッセン』については植物書としてあまり注目されていない。

1983年筆者ら（水野・遠藤）は飯沼順二医博の所蔵文書の中にキニホフ著『植物印葉図譜』の写本1冊を含む西洋植物書の模写図多数（飯沼家模写図）を撮影してその原書の調査を試みた。これより先、1973年吉川芳秋は同氏所蔵の西洋植物書の慾斎模写図1枚（吉川家模写図）を公表しているが，原書は特定されていない[2]。

1990年筆者の1人（松田）はオランダで『アールドゲワッセン』ファクシミリ版を入手してこれを国際日本文化研究センターに納めた（日文研本）。1993年筆者らは吉川家模写図の現存を確かめ，この複製と飯沼家模写図複製とを合せて日文研本と照合して，『アールドゲワッセン』の図の大半が系統的に模写されていることを発見した。また，石山洋氏から，国立国会図書館に『アールドゲワッセン』1冊が購入（1987年）されたことを教えられたので，今年，この国会図書館本との照合を行ない，とくに日文研本の欠図部分の調査ができた。

2. ミュンチングと『アールドゲワッセン』

著者アブラハム・ミュンチング（Abraham Munting, 1626～1683）はフローニンゲンの製薬師（apotheker）の子に生まれた。1642年父ヘンドリック・ミュンチング(Hendrik Munting, 1583～1658）の経営していた薬園がフローニンゲン大学の庇護下に置かれ，今日の同大学附属薬園の源となった。アブラハムは1645年同大学哲学部に入学し，医学を修めた。1654年父が植物学教授に就任すると，その元で助教授となり，父の死後，跡を継いで植物学教授となった[3]。

「アールドゲワッセン』(Naauwkeurige Beschryving der Aardgewassen.,1696)[4]は処女作『植物の正しい栽培』(Waare Oeffening der Planten.,1672)[5]の増補改訂版で，死後出版である。処女作はオランダ・ドイツ両国の風土に即した草木栽培書の欠を補うために，著者の長年の経験に基づいて578種の草木の栽培法を叙述したものである。『アールドゲワッセン』は21種を加えて599種としている。「読者へ」の前書き（無書名）によれば，図版は新たに大学植物園の植物を実写し，彫版師に精密に彫らせたので，植物愛好家に「居ながらにして目で楽しむことのできる屋内庭園」を提供するものという。また，フローニンゲン方言を用いた，時に難解な著者の文章を全章にわたって書き改めたという。『アールドゲワッセン』の図版をもとにフランス・キッヘラール（Frans Kiggelaar, 1648～1722）が編纂したラテン語版の『精密植物図集』(Phytographia Curiosa.,1672)[6]は好評で版を重ねた（1711, 1713, 1727)。

『アールドゲワッセン』の本文は，各種（品）ごとに様々な変種を含めてラテン名とオランダ名を挙げ，その産地・栽培法のほか古今の本草書による薬効などを詳述し，そのうちの代表的な植物について図を付している。図は243枚あるが，1枚に数図を載せたものがあるので，描かれた植物は262種を数える。図は精巧な銅版図（エングレーヴィング）であり，これより以前オランダで出版され，わが国で最も広く利用されたドドネウス（R. Dodonaeus, 1517～1585）の『草木誌』(Cruydt-boeck.,1618, 1644）の木版図に比べ，彩色はないものの，はるかに精緻である。描かれた植物の産地は，南北アメリカ・カナダ・メキシコ・インド・アフリカ・スペイン・イタリアなど世界各地に及び，当時のオランダで珍しい植物を選んで収載してある。また，フローニンゲン近郊と思われる風景や装飾的な図柄が配してある。

3. 模写図の特徴

原書と照合できた模写図は飯沼家模写図220枚と吉川家模写図1枚で，原図の91%にあたる計221枚（238種）である。吉川家模写図は軸装されているが，飯沼家模写図は大判全紙の二つ折本（32cm×23cm）で洋本綴じとした形跡がある。しかし，綴りひもが切れていて本の形態は失われている。図はすべて烏の子紙（雁皮紙，28cm×20cm）を使用して原書の銅版図を上から毛筆で透写したもので，烏の子紙は厚紙の台紙に貼付けられている。虫損などが多く保存状態は良好とはいえないが，植物の姿は鮮明にとどめており，模写図としての価値は少しも失われていない。

飯沼家模写図の配列から，模写図は『アールドゲワッセン』の図版の順序に従って写筆されたものと推定される。吉川家模写図は『アールドゲワッセン』の Acetosa Vesicaria Mexicana., Acetosa Annua Ocimifolia Lusitonica., Acetosa Annua の3種の Rumex を描いている（Fig. 1a）。これに対応する模写図は葉脈はもとより陰影法のハッチングまで忠実にトレースしている（Fig. 1b）。この図の背景に Napellus Gloriosus（Acotinum Napellus L.）の図がかすかに転写している。この転写図は，虫損の位置を含めて飯沼家模写図の1枚と完全に一致する。このことから，吉川家模写図1枚は独立なものではなく，飯沼家模写図の中に含まれていた1枚と推定できる。

模写図は，原図に描かれている風景や人物・動物など植物以外のものは，植物のラテン名のリボン装飾を別にして，ほぼ完全に省略する一方，植物の模写は細心の注意を払っている。植物の正確な描写では原図に優るとも劣らぬ迫真力を持っている。

原書の図版の順序で模写図をみると写筆に顕著な変化がみられる。巻1・2では，はじめは銅版図の陰影法をそのまま毛筆でトレースしているが，次第に墨絵的な陰影法に変化し，巻3第2編に至ると植物の枝葉を切断するなど，大胆な省略も行なっている。しかし，分類に必要なポイント部の省略はせず，植物全形を模写することに力点を置いている。この点，岩崎灌園の『本草図譜』にみられるウエインマン（J. W. Weinmann, 1683～1741）の『植物図譜』の図版（Duidelyke Vertoning. 1736－1748）の簡略化した断片的模写図と比較しても[7]，科学的で優れている。

慾斎の模写図のうちで植物の枝葉・茎を切断したものは23例ある。その1例は Britannica Antiquorum Vera.[8]（Rumex aquaticus L.）の図である。原図（Fig. 2a）は Folio判のため慾斎の使用した烏の子紙では植物の全形が収まらないので，茎部A－A′を短縮して，A点（Fig. 2b）で接合している。これによって花部あるいは根部を失うことなく全形を模写することに成功している。こうした短縮例が Lapathum Vulgare Album Folio Subrotundo., Lapathum Sativum Antiquorum.,Rhabarbarum Lanuginosum Sive Lapathum Chinense Longifolium. でもみられる。

模写図には漢名・和名を記した付札があるが，22点と模写図の10%にみたない。付札が少ないのは，剥脱などでの消失も一因であろうが，模写された植物の多くが日本の植物と比べてあまりにも異質で同定不能だったのが主因と思われる。

模写に利用した原書は，慾斎自身がこれを持っていた形跡はない。原書の存在は江馬蘭斎（1747～1838）の旧蔵書1本[9]以外には報告されていない。蘭斎旧蔵の『アールドゲワッセン』は蘭斎の没後，1840（天保11）年伊藤圭介が借本を依頼した書簡がある[10]。慾斎も、蘭斎の孫江馬活堂との交友関係からみて，この江馬家本を利用した可能性が強い。

4.　『草木図説』への影響

『アールドゲワッセン』は，『草木図説』において「ムユン氏」「門氏」などと引用されており，草部4項と木部2項の合計6項に引用例がある[11]。

アダン（草部巻7）：慾斎はアダン（草盧會，Fig. 3a）を，宇田川玄随の『遠西名物考』や榛斎・榕菴の『遠西医方名物考』などに従って，薬用の盧會を製するアロエの一種，Aloe vera と同定し，「ムユン氏有図可証」としている。『アールドゲワッセン』でアダンに最も近い図は Aloe vera vulgaris（Fig. 3b，模写図 3c）である。この図は，葉先の尖っている点や花穂の配列などでアダンと一致しない。Aloe vera はアフリカ産。一方，アダンは Aloe vera とは別種で江戸期には琉球産種が珍重され，慾斎の観察したのもこの琉球産種と思われる。

牧野は増訂版で百合科の「タウロクワイ」Aloe chinensis Baker. と改訂している[12]。

アダン一種（草部巻7）：慾斎は，安政年間舶来の品（Fig. 4a，新訂版リウゼツラン）を挙げ，「余本条ヲ見ル事稚草ノ一根ノミニシテ，成長花実ノ状ヲ見ザレバ，ソノ殊標ノ考ヲ得ズ」として「門氏所図中所載ノ Kleyne americaansche Aloe met doornen. ナルモノ本状ノ如クナレドモ形状ヲ略スレバ当否難決」と，観察不十分で当否が決め難いとしている。Kleyne americaansche Aloe met doornen. は『アールドゲワッセン』の Aloe Americana minor folio mucronato（Fig. 4b，模写図 4c）である。花の描写がなく，慾斎の云うようにこの図だけからは同定できない。

牧野は増訂版で Agave americana L. var. variegata Nichols. と改訂している[13]。

ヒキヲコシ（草部巻11）：慾斎はヒキオコシ（Fig. 5a）を Ocymum rugosum Thun. に当てた。ヒキオコシが本邦産の Digitalis とする説があり，これを検証するため『ドドネウス』をはじめ『ミュンチング』『ホッタイン』『キニホフ』等を調べ，これによって同族関係がないことを確認したとしている。『アールドゲワッセン』のジキタリス（Fig. 5b，模写図 5c）は葉形が明らかにヒキオコシと異なる。

牧野の増訂版では唇形科の Plectranthus rugosus Makino. と改訂[14]。

ヌスビトハギ（草部巻14）：慾斎は Hedysarum racemosum Thun. に当て（Fig. 6a），「ミュンチング氏所載 Trifolium spicatum americanum.」の図説が的当するとしている。『アールドゲワッセン』の Trifolium spicatum americanum.（Fig. 6b）と比べ葉形は酷似しているが，花穂が異なる。『アールドゲワッセン』では花の細部もわからない。

牧野は増訂版で Desmodium japonicum Miq. と改訂[15]。国立博物館所蔵の慾斎の腊葉は山崎敬氏によって Desmodium oxyphyllum DC. と同定されている[16]。

獅子サボテン（木部巻4）：慾斎は『アールドゲワッセン』の Sedum crispum. と比較するが，ベンケイソウ科のねじ曲った植物を意味する Sedum crispum. とは名称が異なるとして固定を保留している。

北村四郎編註の『木部』ではコクリュウ　黒龍 Pterocactus tuberosus Britton et Rose と同定している[17]。

シロヂシヤグラ（木部巻4）：慾斎は，粕河（岐阜県池田町粕ヶ原）の方言によってシロヂシヤグラの名をとり，Laurus Sassafras L. に同定（Fig. 7a）.「阿須氏門氏等ノ図説共可併証」としている。Sassafras はその根木が芳香性収斂剤として蘭方医に注目され，シーボルトの用薬の中にも見える[18]。『遠西医方名物考』には『アールドゲワッセン』ではなく『植物の正しい栽培』の Sassafras arbor folio ficulneo. の模写図が掲載されている[19]。『アールドゲワッセン』の Sassafras Arbor Folio Ficulneo の図（Fig. 7b，模写図 7c）はシロヂシヤグラの図と比較して，葉の分裂が深く，同属とするにはやや無理がある。

北村四郎編註の『木部』では Laurus ではなく，Lindera obtusiloba Blume と改訂している[20]。

以上6例は，すべて『アールドゲワッセン』の記文ではなく図を同定の手段としている。この点では玄白一門が記文の薬効の部分に注目したのと対照的であり，旧来の蘭方医との立場の相違をきわ立たせている。しかし，『アールドゲワッセン』はリンネ以前の旧式書であり，図による同定はかなり困難があるほか，日本に無い植物ばかりが収載してある。アダン・ヌスビトハギ・シロジシヤグラの3例について試みた同定も，結果としては今日からみてすべて誤っている。従って，『アールドゲワッセン』の『草木図説』への影響は，分類の面に限れば，あまり目覚ましいものとは言えない。『アールドゲワッセン』の図の分類学上の欠陥は慾斎自身が気付いていて，6例で指摘している。図の欠陥を認識しながら，なおも「図可証」と高い評価を与えている点に『アールドゲワッセン』の影響の大きさが窺われる。

5. 討論と結論

『草木図説』の序文（1852年）の中で慾斎が最も高く評価している西洋植物書は，リンネの分類法に従ったハウトゥイン（M. Houttuyn）の『博物誌』[21]とオスカンプ（O. L. Oskamp）の『薬用植物図譜』である。引用例も草・木両部合せてそれぞれ370例，91例と『アールドゲワッセン』をはるかに越えている[22]。しかし，この2書の利用は，『草木図説』を起筆したと推定される弘化元（1844）年頃より少なくとも5，6年後とみられるから[23]，起筆の動機となったとは考え難い。

従来，『草木図説』の起筆に最も大きな影響を与えたと信じられているのはウエインマンの『植物図譜』であるが[24]，『植物図譜』の利用は嘉永6（1853）年であることを伝える資料があり[25]，これも起筆の動機とはなり得ない。

『草木図説』の起筆前後に参考できたのは，ドドネウスの『草木誌』，ショメールの『日用百科辞典』と『アールドゲワッセン』など数種に限られていたと推定される。ドドネウスの『草木誌』はあまり精密とは言えない木版図であり，ショメールの『日用百科辞典』は図に乏しい。この中で，銅版図の精緻さと美しさで最もすぐれているのは『アールドゲワッセン』にほかならない。キニホフの『植物印葉図譜』も模写図をつくって利用していた可能性があるが，特殊な印葉図（原書は彩色）であり，他の植物図譜の影響とは同一には論じられない。

今回発見された『アールドゲワッセン』の模写図は221枚に達し，原書の全図が模写されたと推定される。植物の全形と分類のポイントを正確に模写する周到さは，植物分類についてのかなり深い理解とすぐれた写生力を示している。原図に優るとも劣らない迫真力のある模写図は，西洋植物学の虜になった慾斎の熱情をも感じさせる。西洋の植物図譜に劣らない日本の植物図譜の執筆を思い立った一つの動機が，この模写作業にあったとも推察される。

『草木図説』は，『アールドゲワッセン』などの銅版図とは表現法が異なり，中国・日本の墨絵法を発展させ，葉の表面を黒く葉脈を白く浮き立させた美しい表現をとっている。これは出版が木版印刷に拠ったという制約もあろうが，慾斎の西洋植物図譜に対する一つの姿勢を示すものであろう。

『アールドゲワッセン』の慾斎による模写図は，『草木図説』の執筆の動機を考察する上でも貴重な資料であるが，その成立時期の決定をはじめ詳細な分析は，なお今後を期さなければならない。

謝辞

貴重な模写図の利用をご許容くださった飯沼順二医学博士と吉川たい子女史，オランダ本草書の調査に関してご協力をいただいた白幡洋三郎国際日本文化研究センター助教授，また，貴重な情報の提供をいただいた石山洋東海大学教授に深く感謝する。

引用文献と註

1) 矢部一郎，実学史研究Ⅵ，思文閣出版，3（1990）.

2) 吉川芳秋，現代医学，21（1），127（1973）.

3) Ch. Henriette Andreas, In en om een Botanische Tuin Hortus Groninganus 1626-1966, Groningen, 1976.

4) Abraham Munting, Naauwkeurige Beschryving der Aardgewassen. Leyden, Pieter van der Aa ; Utrecht, Francois Halma, 1696. Folio. (40p.), col. 1-col. 640（=320p.），(2p.), col. 641-col. 930（=145p.），(64p.）; 243 plates. 図版のみのダイジェスト版に，Decorative Floral Engravings. Dover, 1975, 118 plates. この2版と Fantastic Froral Engravings. Dover, 1978, 3版として Floral Engravings for Artists and Craftspeople. Dover. がある.

5) Abraham Munting, Waare Oeffening der Planten. Leeuwarden, Hendrik Rintjes, 1671. Quarto. 40 plates. Amsterdam, 1672 ; Leeuwarden, 1682. 通常『正しい植物の効用』と訳されるが. oeffening（exercise）を効用と訳すのは適切でないので，本稿では『植物の正しい栽培』とした.

6) Abraham Munting, Phytographia Curiosa. Amsterdam, F. Halma ; Leiden, P. van der Aa, 1702. 田中長三郎，泰西本草家及び本草家，岩波書店. 38（1931）は，この書が日本に舶来したとしているが，これを裏付ける資料は見当たらない.

7) リチャード・C・ルドルフ. 美花図譜—植物図集選—，八坂書房，113（1991）.

8) ミュンチングは，Britannica を Britannia（イギリス）の植物とは考えず，かってオランダ北部のフリースランド地方で懐血病に対して用いられた薬草にあて，古フリースランド方言の 'Brit'（とどめるもの）— 'tand'（歯）— 'hica'（脱落）の合成語と解釈した. Abraham Munting, Herba Britannica. Amsterdam, 1681.

9) 江馬文書研究会編，江馬家来簡集，思文閣出版，5（1984）所載の杉田玄白，宇田川玄随，大槻玄沢の書簡3通に寛政6・7年頃，玄白ら江戸の蘭方医が江馬蘭斎所蔵の『アールドゲワッセン』を借用して訳述を試みていた事実が見える.

10) 前注9)江馬家来簡集の伊藤圭介の（天保11年）10月21日付江馬春齢（活堂）宛書簡.

11) 遠藤正治，飯沼慾斎，飯沼慾斎生誕二百年記念誌編集委員会編，思文閣出版. 272（1984）.

12) 牧野富太郎訂，増訂草木図説，2 成美堂，516（1910）.

13) 同前，517.

14) 牧野富太郎訂，増訂草木図説，3 成美堂，837（1913）.

15) 同前，1001.

16) 山崎敬，国立科学博物館所蔵飯沼慾斎腊葉目録，飯沼慾斎，390.

17) 北村四郎編註，草木図説木部，保育社，169（1977）.

18) 清水藤太郎，日本薬学史，南山堂，125（1949）.

19) 前注1)において矢部は，『遠西医方名物考』の「図攷」の載るサッサフラスの図を『アールドゲワッセン』からとった唯一の図とみなしているが，『アールドゲワッセン』の Sassafras arbor folio crenato. の図とは異なる. 日文研所蔵の Waare Oeffening der Planten. Leeuwarden, 1682. の Sassafras arbor folio crenato. の図と一致する.

20) 前注17), 743.

21) 松田清, 慾斎研究会だより, 53. 2 (1991).

22) 前注11), 272.

23) 遠藤正治, 慾斎研究会だより, 57. 6 (1992).

24) 木村陽二郎, 美花図譜—植物図集選—八坂書房, 99 (1991).

25) 前注11), 274.

Fig. 1 a) Acetosa Vesicaria Mexicana., Acetosa Annua Ocimifolia Lusitonica., Acetosa Annua Africana. (Lumex), From 'Aardgewassen, 1696' by A. Munting. b) their copy drawings by Yokusai Iinuma. Mrs. Taiko Yoshikawa's collection.

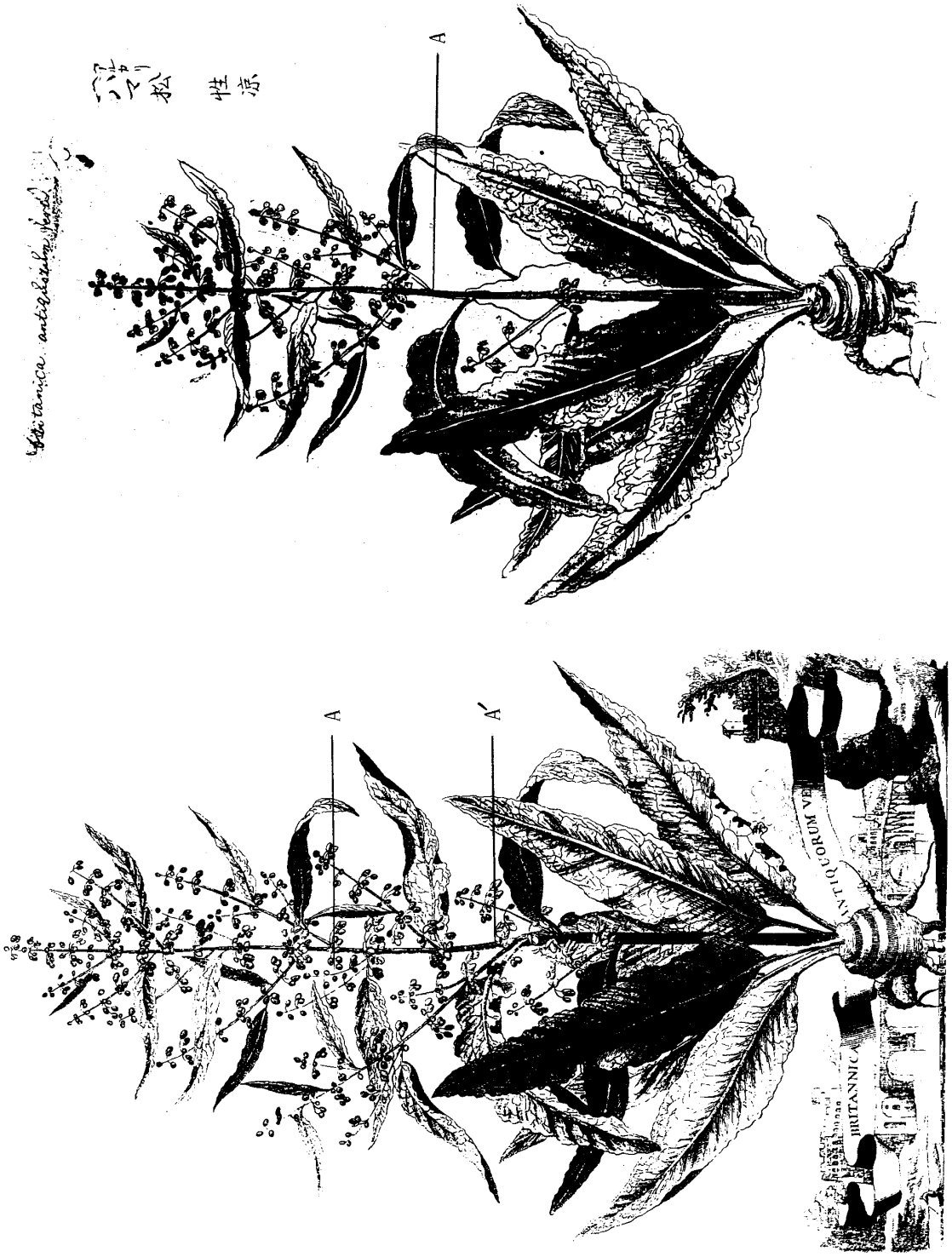


Fig. 2 a) Britannica Antiquarum Vera. (Rumex aquaticus L.) from 'Aardgewassen, 1696'.
b) drawing by Y. Iinuma, contracted from A—A' of a) to A. Dr. Junji Iinuma's collection.

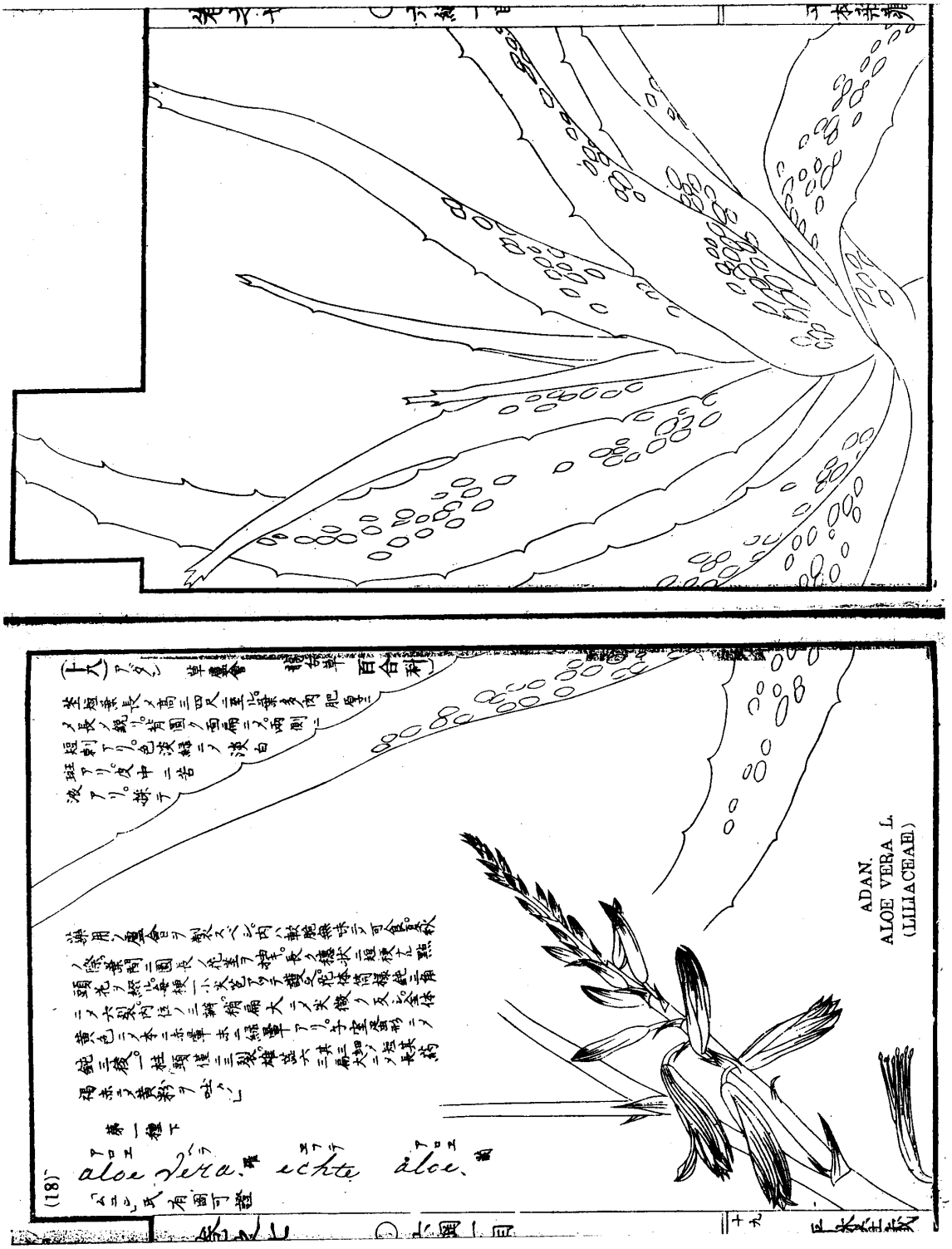


Fig. 3 a) Aloe Vera (Aloe Chinensis Baker.) from 'Somoku-dzusetsu' by Yokusai Iinuma.

b)

c)

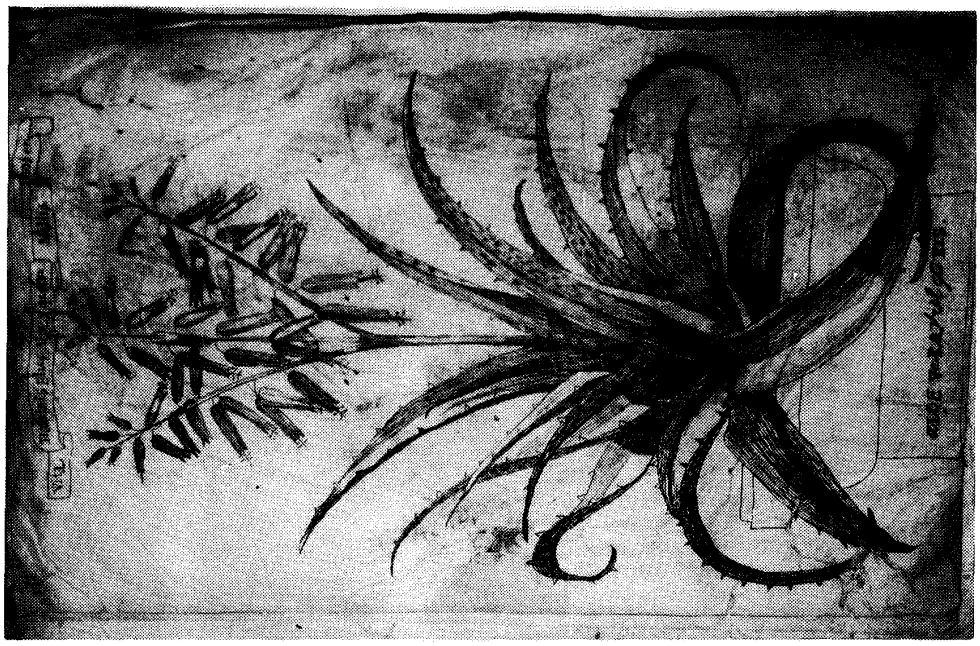


Fig. 3 b) Aloe Vera Vulgaris. from 'Aardgewassen, 1696'.
c) copy drawing by Y. Iinuma. Dr. Junji Iinuma's collection.

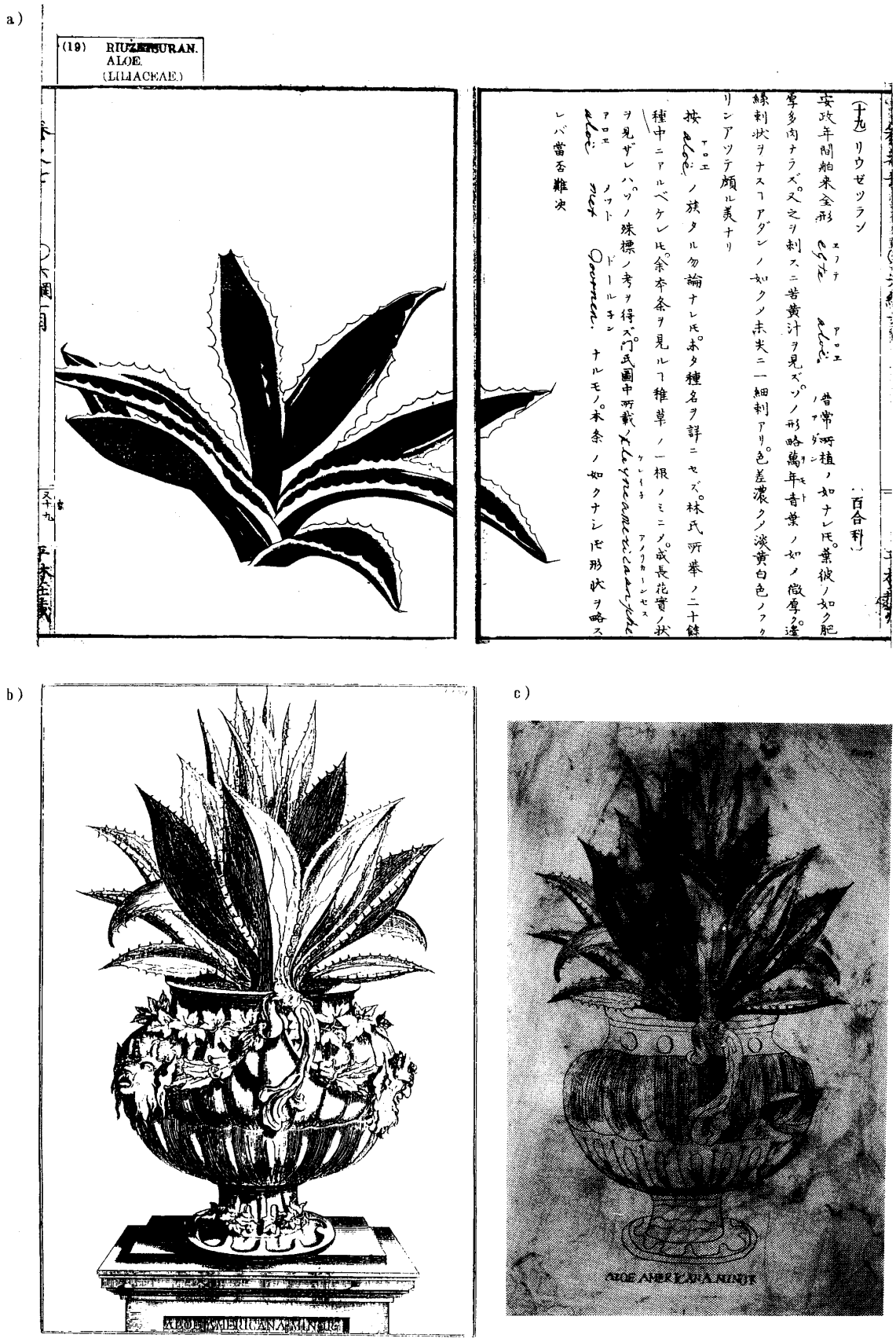
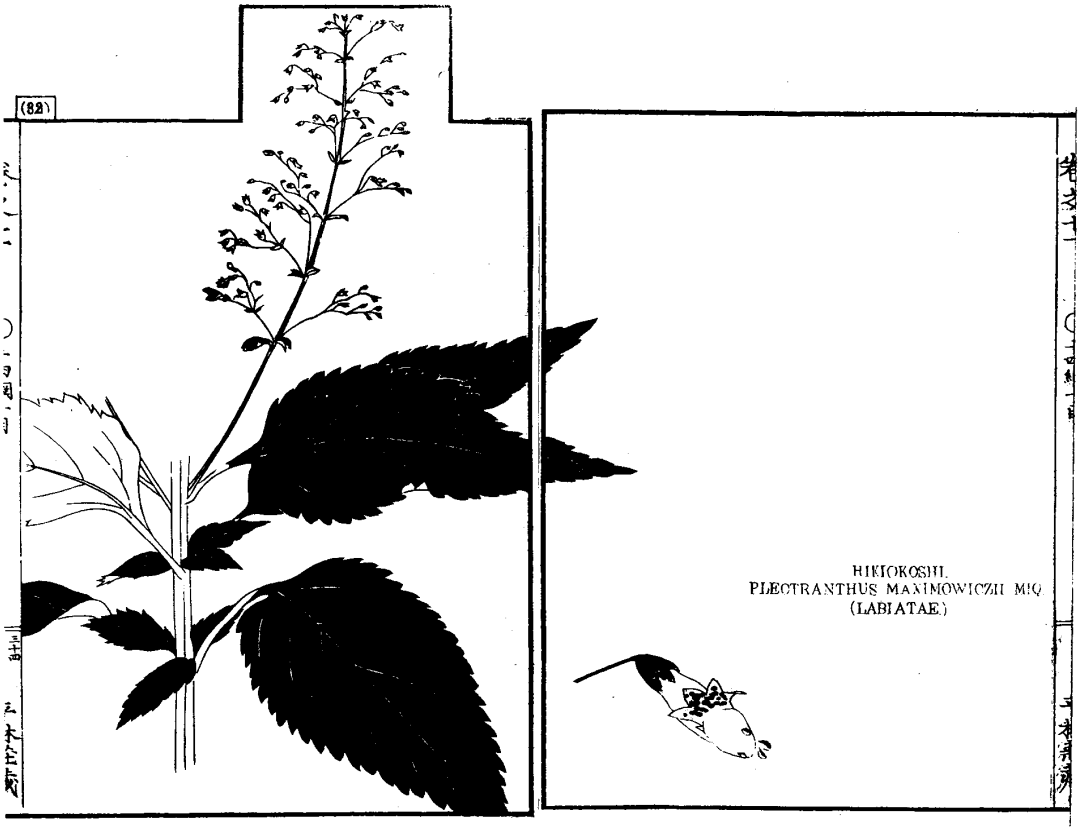


Fig. 4 a) Agave americana L. var. variegata Nicols. from 'Somoku-dzusetsu'
b) Aloe Americana minor folio mucronato. from 'Aardgewassen, 1696'.
c) copy drawing by Y. Iinuma. Dr. Junji Iinuma's collection.

a)



b)

c)

Fig. 5 a) Plectrathus rugosus Makino. from 'Somoku-dzusetsu, 1875'.
b) Digitalis Virginiana Augustifolia Spicata. from 'Aardgewassen, 1696'.
c) copy drawing by Y. Iinuma. Dr. Junji Iinuma's collection.

Fig. 6 a) Desmodium japonicum Miq. from 'Somoku-dzusetsu, 1875'

b)

b) Trifolium Spicatum Americanum. from 'Aardgewassen, 1696' .

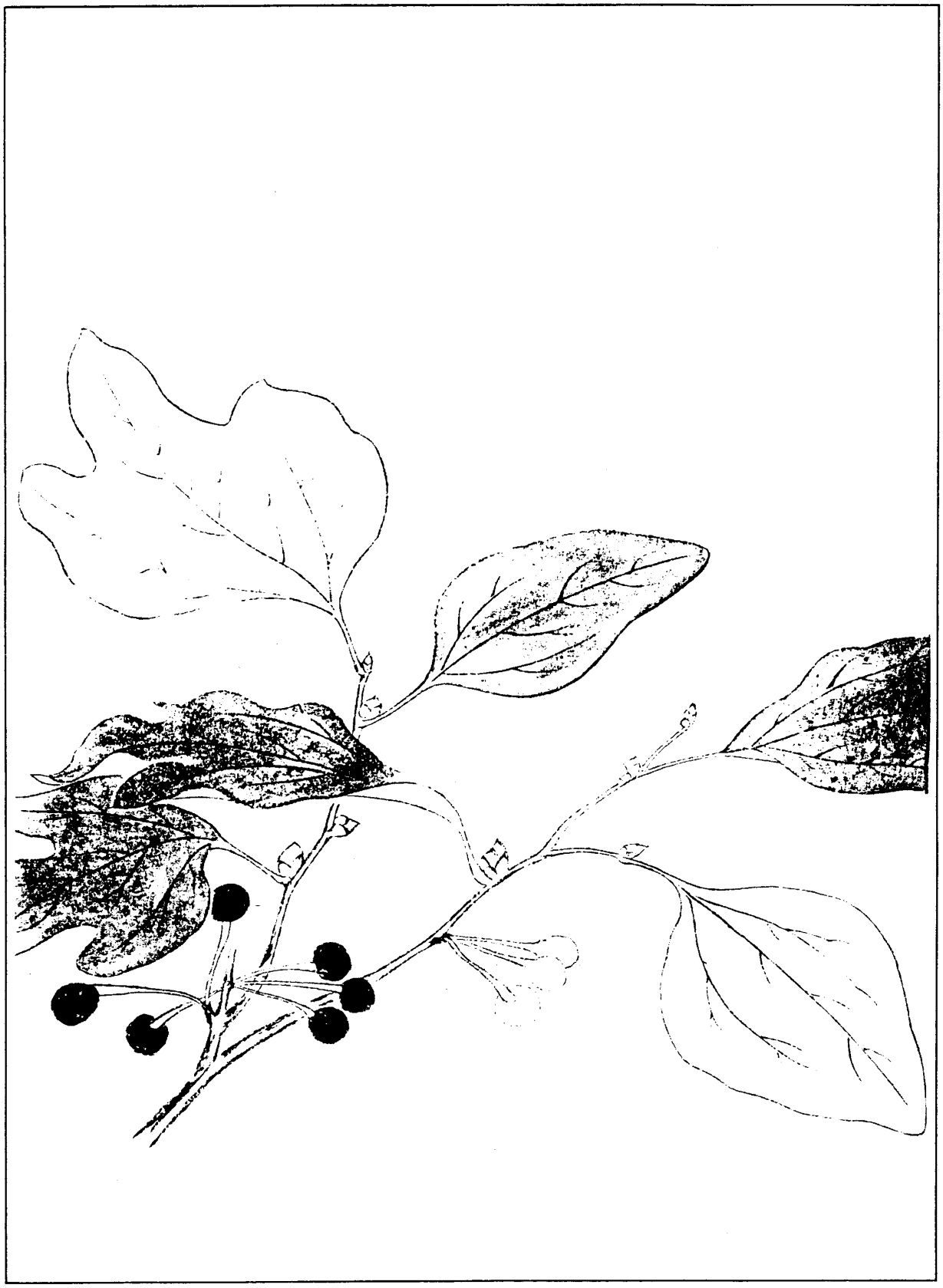


Fig. 7 a) Lindera obtusiloba. Blume. from 'Somoku-dzusetsu, 1977', ed. Shiro Kitamura.

Fig. 7 b) Sassafras Arbor Folio Ficulneo from 'Aardgewassen, 1696' .

Fig. 7 c) copy drawing by Y. Iinuma. J. Iinuma's collection.